



青山御流

活花手引種後篇三



多
2848
10-3

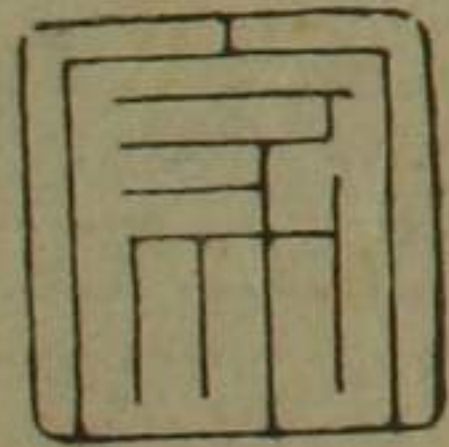




花山院前内大臣家厚公

花山院前内大臣家厚公

家厚



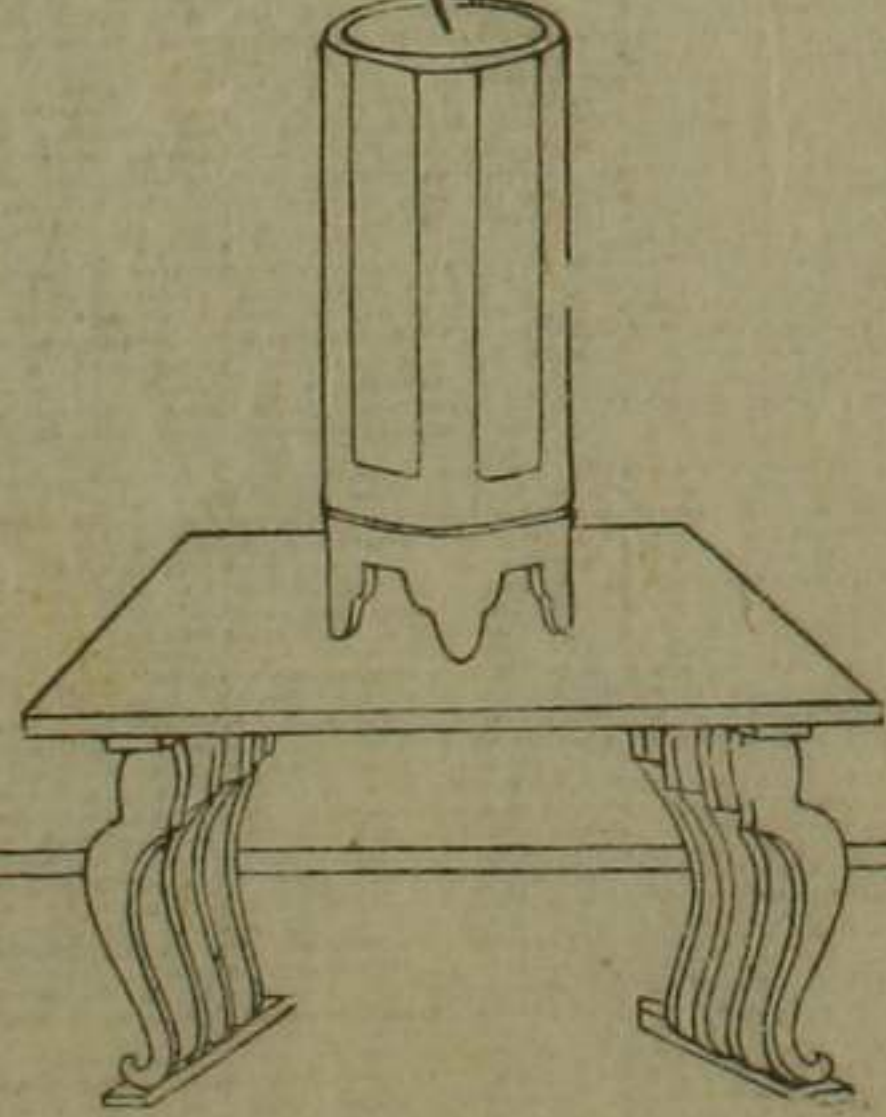
賢木



權中納言基茂卿

希賢君

畫所預從五位上左近衛將監藤原光文



大納言基理卿

賢木葉迹表之五平
垂之四手忽正千代
丹榮由久美智宮子
禮之伎 基理



畫前國字佐宮神寶神代古鈴并戶張

外圖 嵯峨天皇御納物 平胡籙

熊野新宮神寶 模寫

峯秀謹寫

畫

右近衛少將基萬朝臣

布直君



鶯宿梅

山茶 二花

畫所預正五位下依守藤原光清



西法時子よま流末よま流と流と一葉多し乳
何道も人乃こ流と流と一葉多し乳
そのま雪をたうらうらと流と流と一葉多し乳
多し流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳
花を流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳
流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳
流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳
流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳
人乃こ流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳
流と流と一葉多し乳と流と流と一葉多し乳

菊 神遊 九輪



從二位上伊勢左衛門清原春盛畫



希春君



茶奠囊



公事振源 後成恩寺園白殿下 重陽宴条云 九月九日ハテ日トシテ侍レハ
御前ノ宴ハハテ中ノ御帳ノ左右ノ茶奠ノ囊をウケ
氣をナシクシテハ本々あり
以御撰茶之古良味重陽之日茶奠并菊必用之故漢家其證亦殊多矣
高橋下大筆兼前藩士左衛門大尉中原朝臣章武謹認

文行
之精

點
空
造
人
匠
金

渾
入
孝
極
中
基
祥
題

基祥

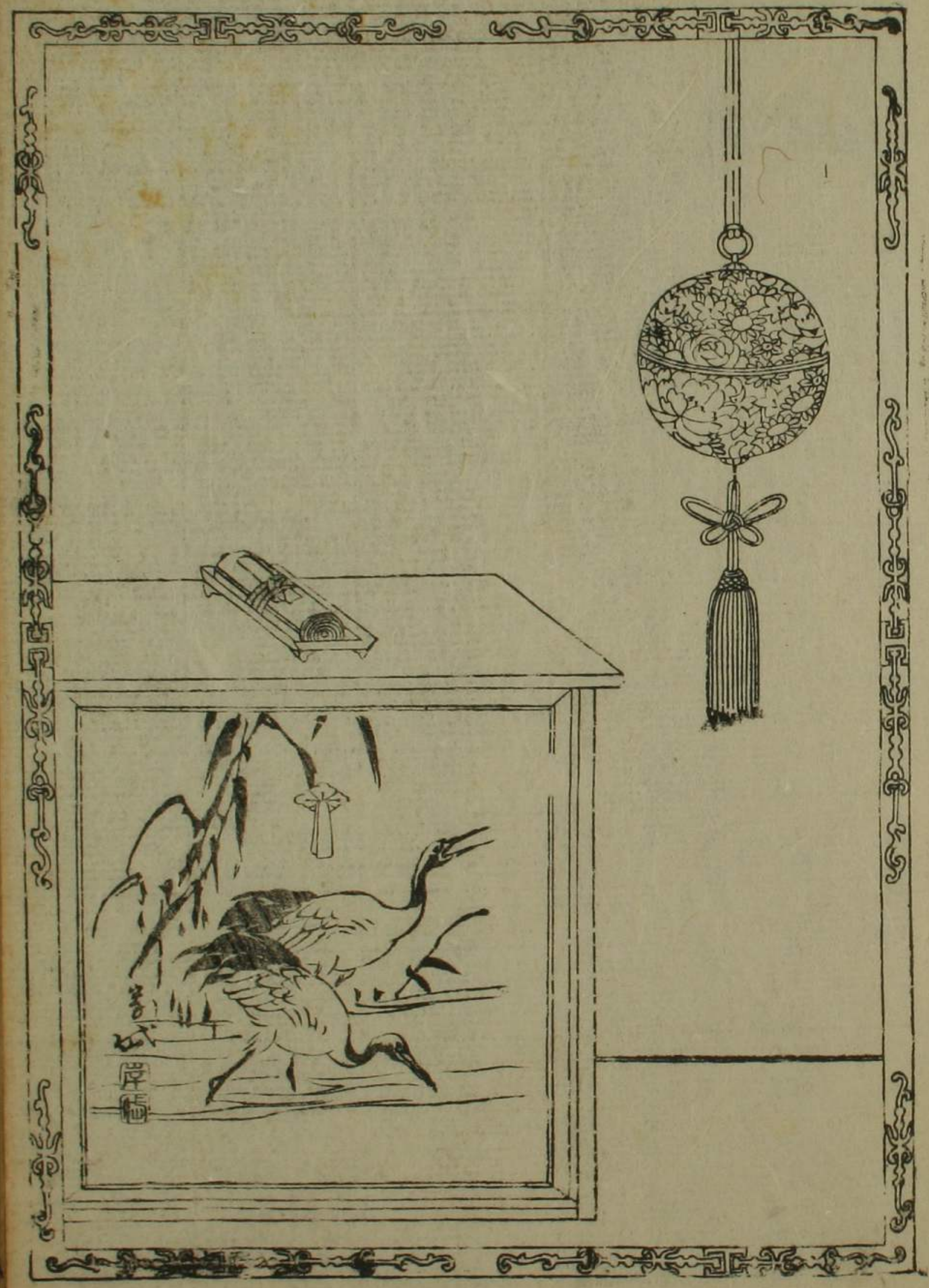
古事記の神代乃御卷、天香山之五百津真賢木矣根許士爾許士
テ而於上枝取著八尺勾璉之五百津之御須麻流之玉於中枝取繫八尺鏡
シモツエニシラニキテアラフニキテラトリ於下枝取白丹寸手青丹寸手而此種々物者天布刀玉命布刀御幣登
トリモチテ取持而とあるを始とて今も神サカキの糸綿垂附イフを玉串といひて皇神と
コト奉るなり、亦手向串乃義コト萬葉集に五十串立神酒座奉神
ヌレノ主部之とあれ故乃五十串ハ齋串イケレ是も玉串なり、神酒瓶子の口に今も此卷の
スレノ青葉をさす古例有
サキモリの防人乃歌乃庭中乃阿須波乃神乃小紫サキ吾ハツそそ年降り事乃
ハツヒあつ今乃世家ごと月ハツヒの始小紫乃柳ハツヒとて小瓶ハツヒ乃ハツヒ竈ハツヒの神乃奉る
サトド花乃ハツヒもいふは是也、花をりて皇神を祭は書紀乃神代乃御卷、伊弉
サトド册尊乃鏡ハツヒ乃ハツヒ紀伊國熊野此有馬村の土俗サトド此御魂祭乃花時亦以花祭
ハツヒとあるを始なり、神祇令孟夏三枝祭義解小率川社祭也以三枝華飾酒樽祭故曰西宮
三枝也とある三枝ハ古事記ハ山由理草之名とあり今乃百合なり

記子九月九日以菊瓶立御帳前ハツヒとて今乃園の君乃さハツヒむい
カシエ寫盃乃はぬ是をハツヒされ々神も君と平人ハツヒも常々愛乃花乃木花之
サキハヤ佐久夜毘賣乃御名乃さくやハ開光映の意なりハツヒ之々此神の御容儀
ハツヒをもいひやさハツヒこれ乃書ハ本草のそをハツヒあつとて瓶挿ハツヒを
ハツヒす画巻なれ正木のわづハツヒ末くけそ永く花の道はたハツヒきくハツヒな
ハツヒはハツヒなハツヒすハツヒおハツヒのハツヒ神の御心もわハツヒい人ハツヒもハツヒりハツヒやハツヒわハツヒらハツヒばハツヒ幸ハツヒ福ハツヒあり
ハツヒとてハツヒおハツヒわハツヒかハツヒ伊ハツヒき
ハツヒ種ハツヒ乃ハツヒ花ハツヒのハツヒすハツヒをハツヒとハツヒつハツヒおハツヒさハツヒをハツヒ百ハツヒ千ハツヒ万ハツヒとハツヒえハツヒれハツヒがハツヒ昔ハツヒのハツヒ一ハツヒさ
ハツヒ嘉永の四ハツヒとハツヒ勢ハツヒとハツヒりハツヒやハツヒ乃ハツヒ八月の十日あり五日かハツヒくハツヒりハツヒやハツヒ

正五位下陸奥守大中臣富嗣長

亞仙亭佳月拜書





德壽維金君子
萬年

藤澤南



此の如きのたぐひは
二種の海流の中より
先程

一更ぬらり竹と老母を
ふみふみせん
二種の海流の中より
はらりけり
天地の物なり
みよみよ
まはるる

土磨

あはれなり
かたむね

巾

隆正

枝

錦章亭 有正

之

挿火

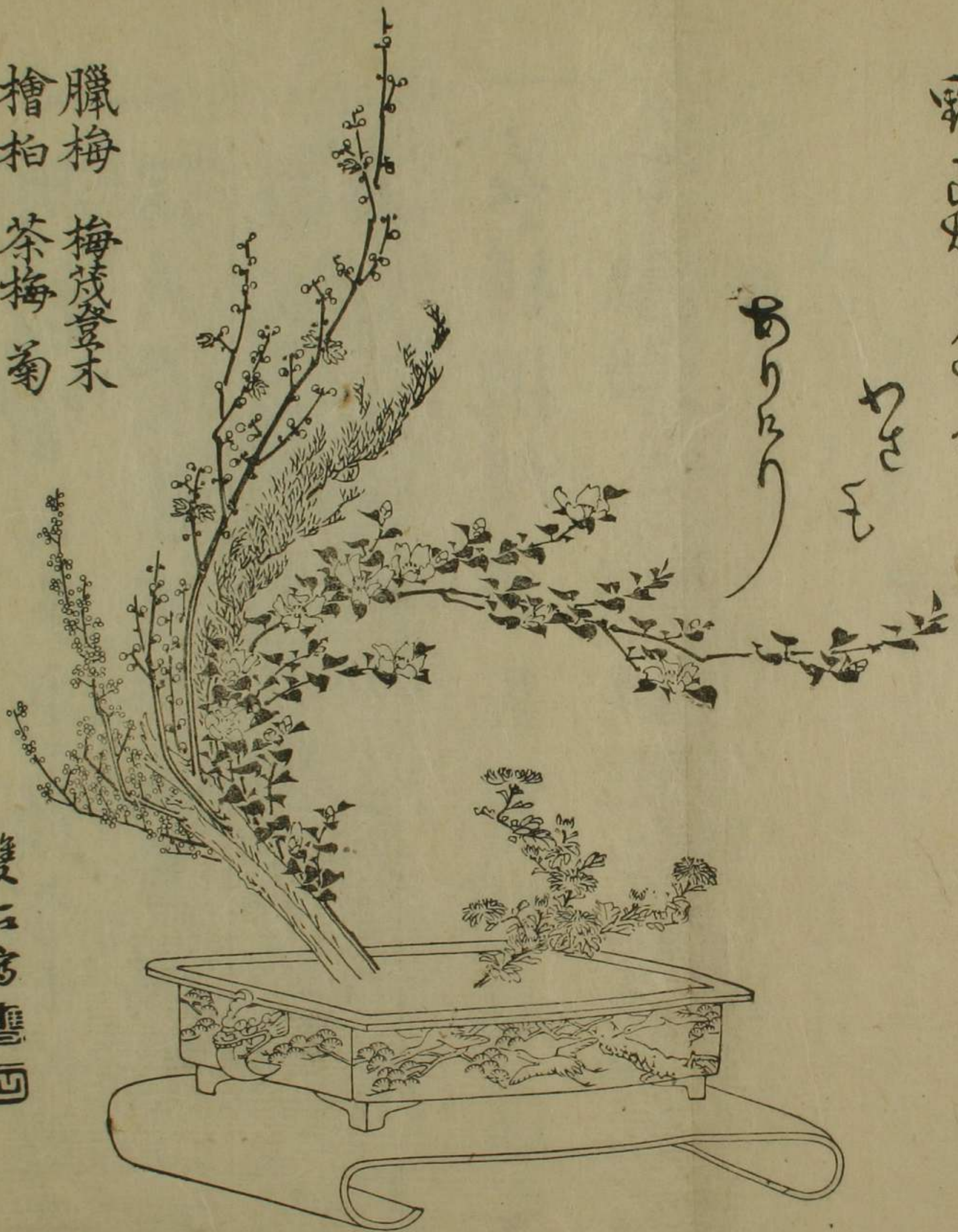
錦

毛

之

臘梅
檜柏
梅茂堂木
茶梅
菊

雙石宮壺



瓶花之有式者人以畫家寫生
折枝喻之其意態方有天趣為
得其堂齋異供瓶尊殊製而於
稱其寬窄小大猶畫家隨屏
障卷軸牋素材質而於稱其
長短縱橫求其郊坰經落交
竹臨漪之趣或論其禁辱加品

爵種之寵光其賞品同但依
其天然枝葉與假其筆墨丹
粉有以異目其依天然者要
不失其露粉日笑嬌嬌之態
出其低者要爭呈其筆墨
丹粉寫照之妙在真未必可
輕辱低其低未必可淺其

真至顧其意態有天趣則一
也但依天然者雖其伎倆至
之令人駭絕者不過頃刻之
寄興而已不可惜哉是故
製此圖式可以播之四方可以
傳之永年猶奕棋之有譜
令覽者可察其風尚乃所

以今在造易者力也又博
索文士品題及俾余輩
弄弄少律云尔

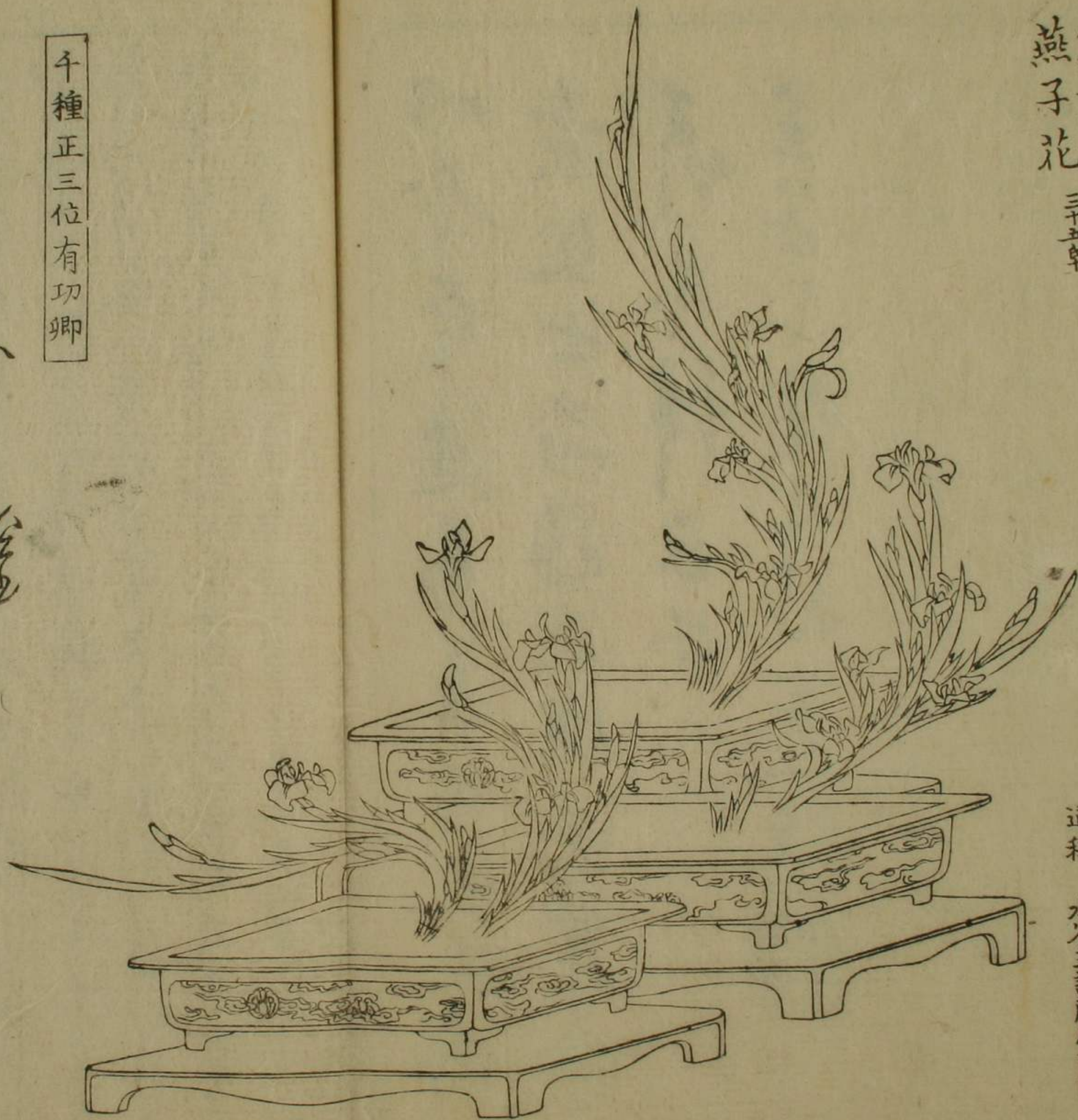
王子之暢月搥苔人題



燕子花 ウミツバキ
三五草

千種正三位有切卿

見よるは
ささるのほろ
ささるのほろ
は
名切



總御會頭
錦章亭逸雅
通稱 水谷主計藤原有正

花鳥のたがひ

花鳥のたがひは、昔も今も変わらぬ。花は花の姿、鳥は鳥の鳴き声。自然の成り行き、人間の心象。花は春を告げ、鳥は春を告げる。花は鳥を慕ひ、鳥は花を慕ふ。花鳥のたがひ、自然の成り行き、人間の心象。花は春を告げ、鳥は春を告げる。花は鳥を慕ひ、鳥は花を慕ふ。花鳥のたがひ、自然の成り行き、人間の心象。花は春を告げ、鳥は春を告げる。花は鳥を慕ひ、鳥は花を慕ふ。

花鳥のたがひは、昔も今も変わらぬ。花は花の姿、鳥は鳥の鳴き声。自然の成り行き、人間の心象。花は春を告げ、鳥は春を告げる。花は鳥を慕ひ、鳥は花を慕ふ。花鳥のたがひ、自然の成り行き、人間の心象。花は春を告げ、鳥は春を告げる。花は鳥を慕ひ、鳥は花を慕ふ。花鳥のたがひ、自然の成り行き、人間の心象。花は春を告げ、鳥は春を告げる。花は鳥を慕ひ、鳥は花を慕ふ。

是從須惠乃花乃加多波人之奈乃高伎低伎遠阿
牙豆羅波受將學乃古伎近伎尔毛不依花乃時乃
速支遲支迺裳不抱唯墨可伎乃奈礼留任示次寸
遠奈世里加久成畢多屢中尔波寫之繪乃書勝礼
屢裳未自禮止花乃儀乃自然尔刀々乃比多屢左
麻者筆乃行止々加奴及尔奈裳曾波禹邊尔靡出太
屢伎字之呂迹比曾美多留花等八言乃葉尔毛得盡
奴左麻乃見由米礼者縮寫乃登止能比加奴屢毛
最古止和里尔古曾然屢表画工乃心凝之豆藻乃世之
奈礼者將見人思比計互疎略尔勿見多麻比曾

卷中插花者の號の傍に國郡を記すものハ皆平安の人ナリ
他邦人ト加ふハハ國郡トナラズ

冷泉左衛門督爲理卿

兼乃難乃ハヨクハカニ
ハカニハカニハカニハカニ



蘭
三年二卷

嘯月亭雪溪

通稱 大塚茂兵衛正好

蓮
十二花一房



鳩峯亭子由
通稱別宮治藤原常

〇十五

此家世忠
柳菴詩

昔此為天抑也是人
空玉堂風清神
才通外直誰能淺
有人以治之觀
氣神以連

花
卷之三

此家世忠

柳菴詩

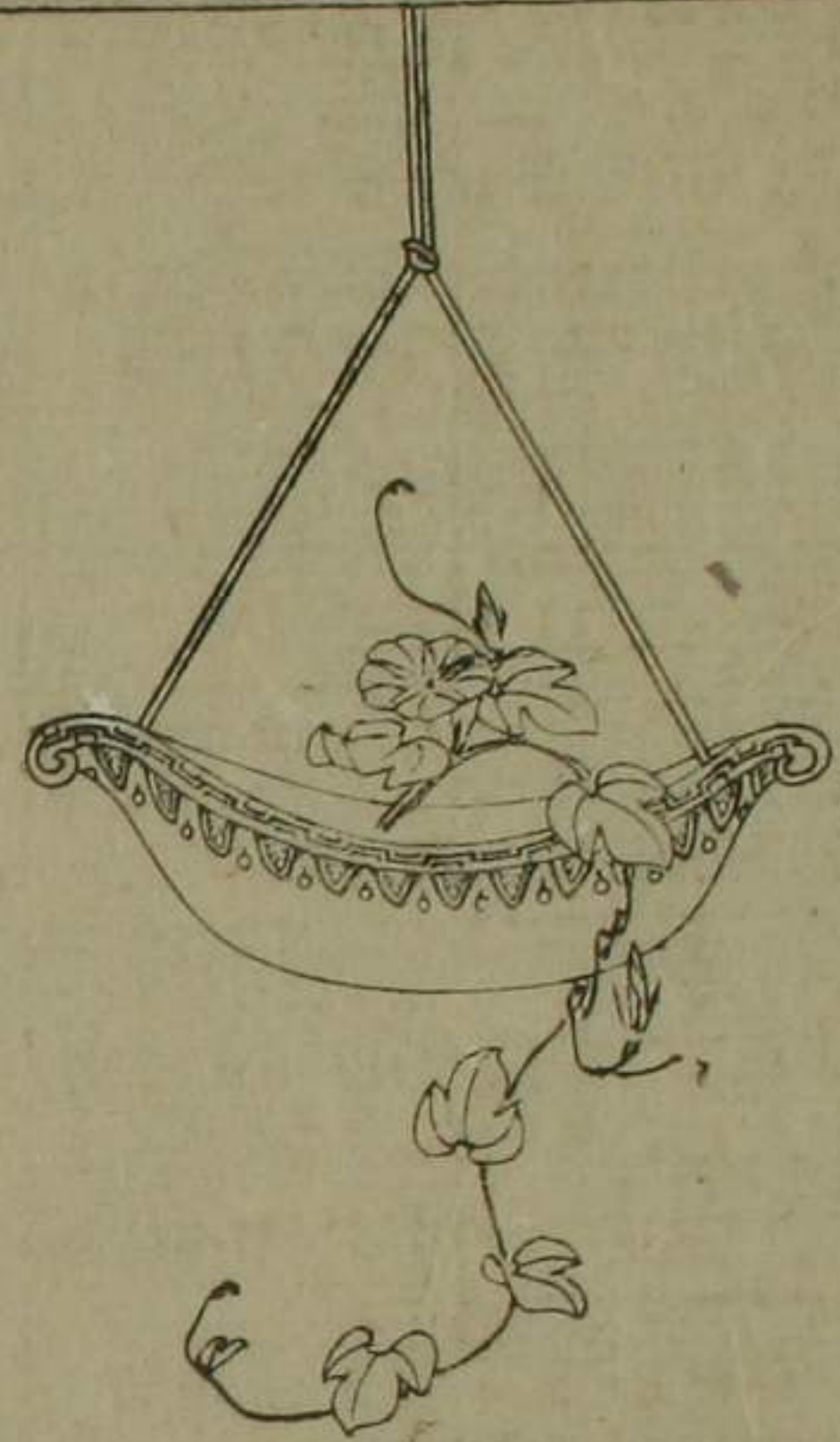
牡丹 ぼたん
三花



淡海國八幡
照旭亭紫窓
通稱野間甚三郎源義胤

手折奉ては守るも孝しゆと云
はくらの後の花枝こそ花大綱

牽牛子 あまぎほ



采原齋弘雅
通稱河村實賢

盆山 おんざん
打雜浪
東雲莽巖
通稱土岐善右衛門良英



為恭 むねたか

所考評名畫風流拈
 筆欲題心自羞身似
 書中乾翅蝶虛名
 後向紙間留

杉宇學子人題




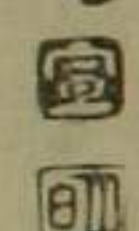
器山田魚雙鈔



猿猴杉
 山茶 赤三花
 白梅 茂登木
 菊 十輪
 水仙 二卒

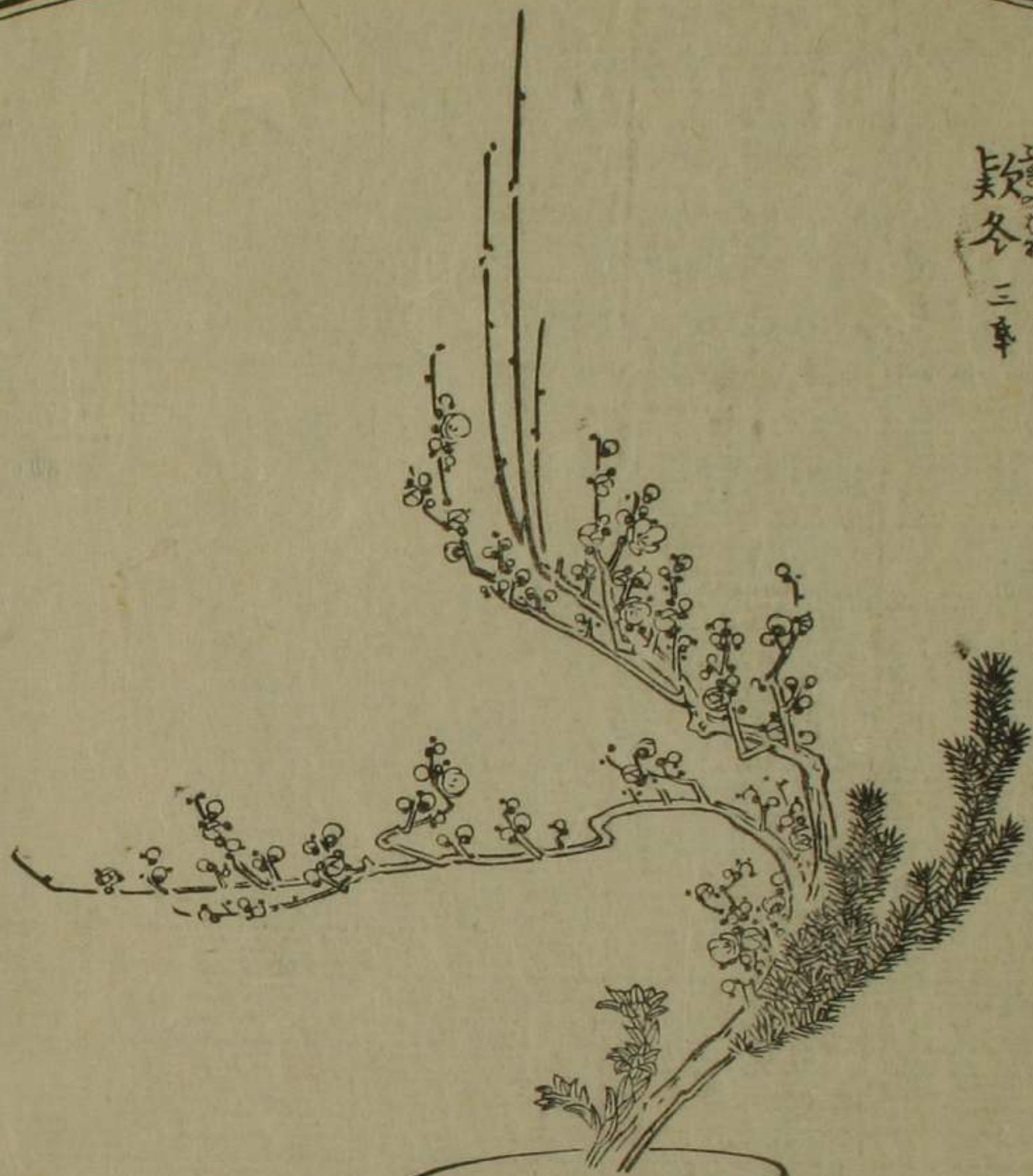
華月齋一東
 通稱 貴久智源賀時

伏原正二位宣明卿


 雲彩冰姿
 艷人間孰不
 憚將詩漫
 莫汙個斯真
 女僊
 梅
 清宣明




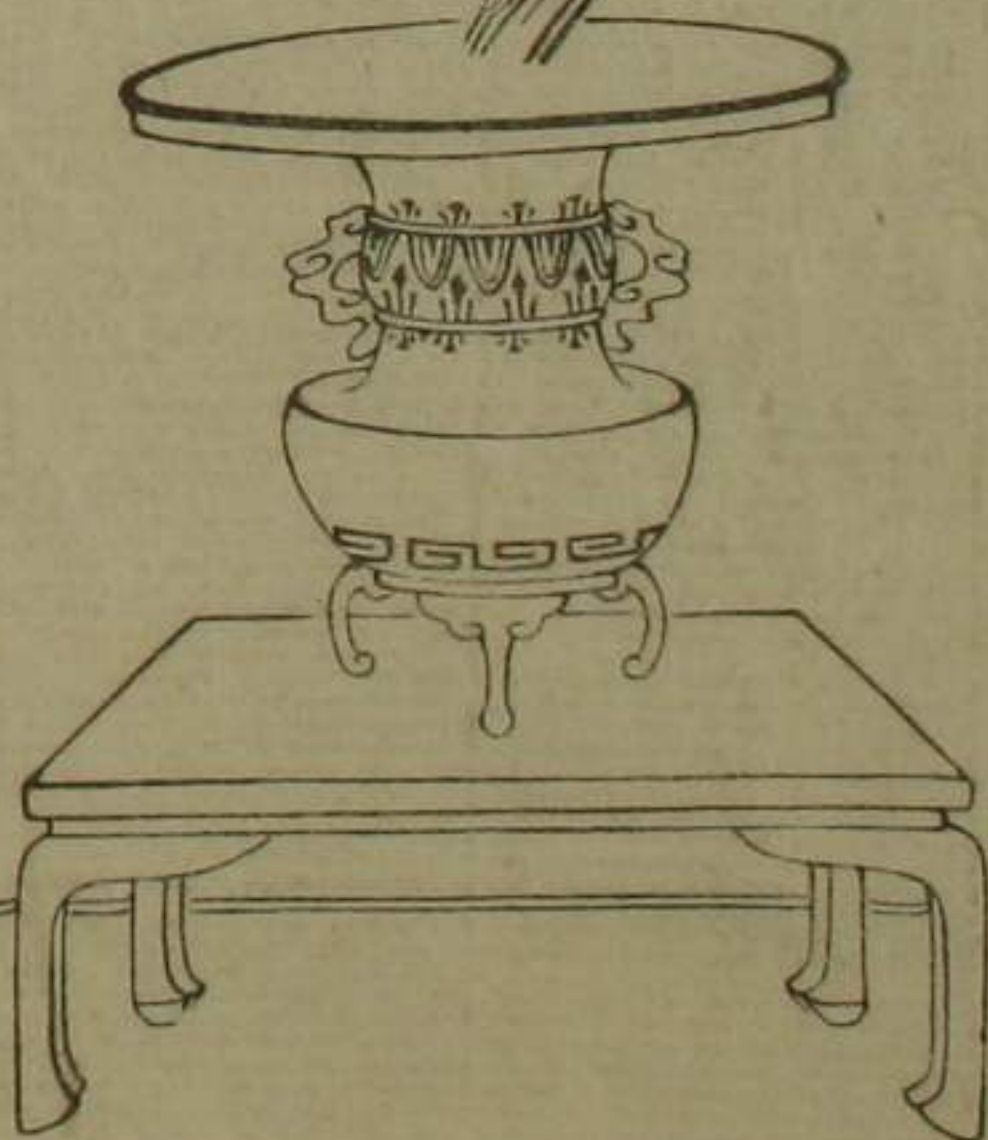
梅うめ
 冬ふゆ
 三さん
 五ご
 載のり
 松しょう



御家執司

巫柳亭綠雅

通稱 秋中治郎藤原由豫



水仙
二十一

竹器鉢 垂水三重



大和國郡山

錦松齋秀雅

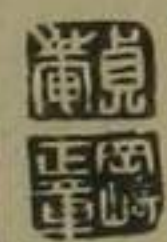
通稱

奥西長左衛門

○活花手引

卷之三

三重筒孔挿投安金盞銀臺
宥態寛め是貴法傳秘訣凌
波仙子昔交欵 貞葺



水仙
一葉 十一



○二十
淡海國大津

湘碧亭節月

通稱

大塚嘉右衛門

水仙一葉

水仙一葉

水仙一葉

水仙一葉

貞葺

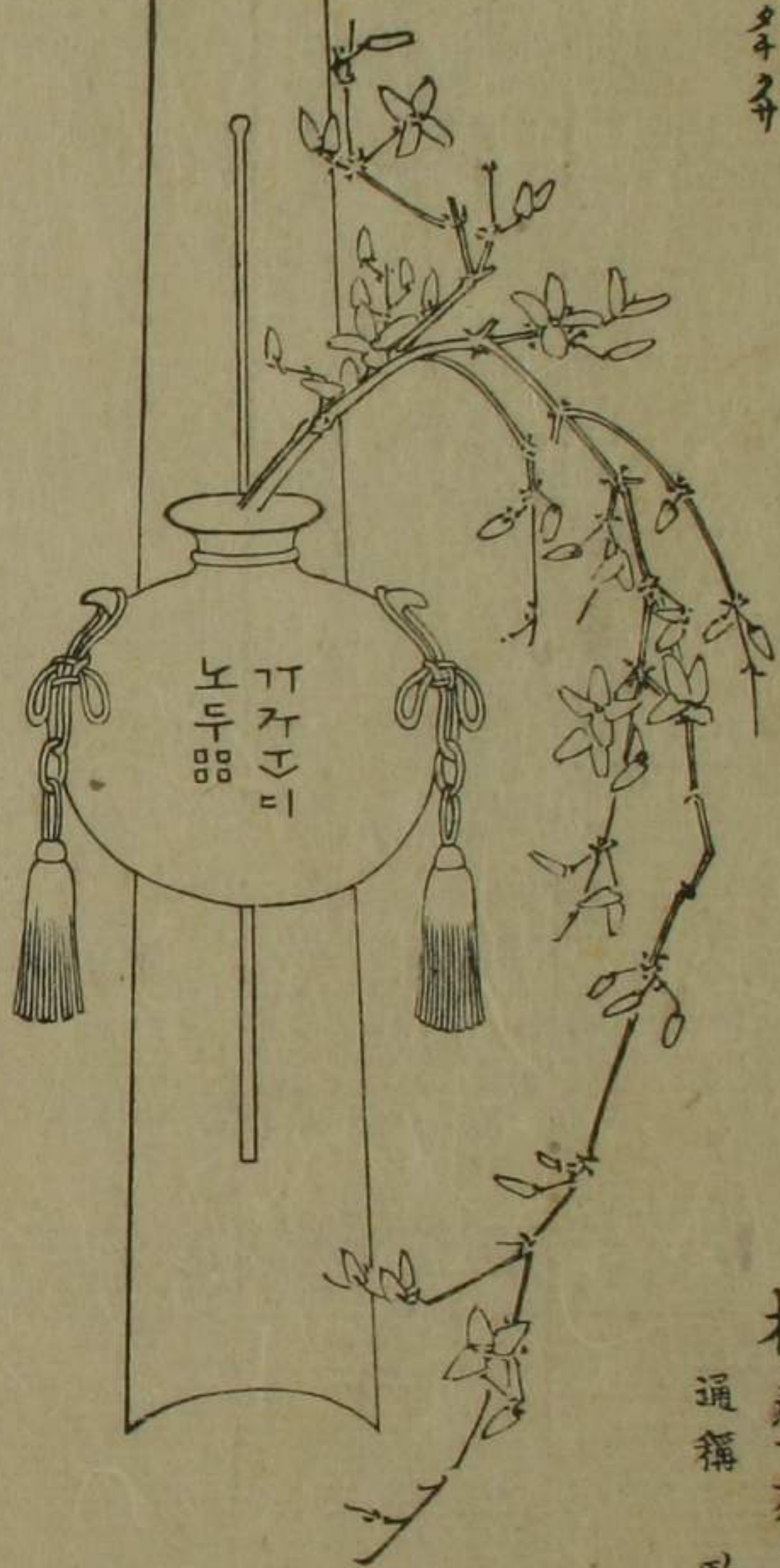
赤花
十一種
芍薬



土佐國御會頭
 衆花亭養雅
 高知藩通稱
 近藤新左衛門
 正五

連翹
イナギナ

器曲玉壺



大和國郡山

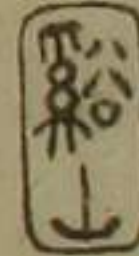
松聲齋幽雅

通稱 駒井長九郎

いんぎん
 子代
 生


雪白樊眉煤目枯
渭濱強起為蒼
生莫言三尺釣
絲短莖出臨淄
子城

太公望

章夫 

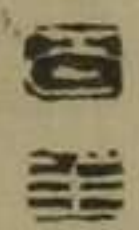
副車一轂鄉
君執神教初
山東劉頂軍
奇策誰知錄
兵日猶歲精
鐵百鍊兮

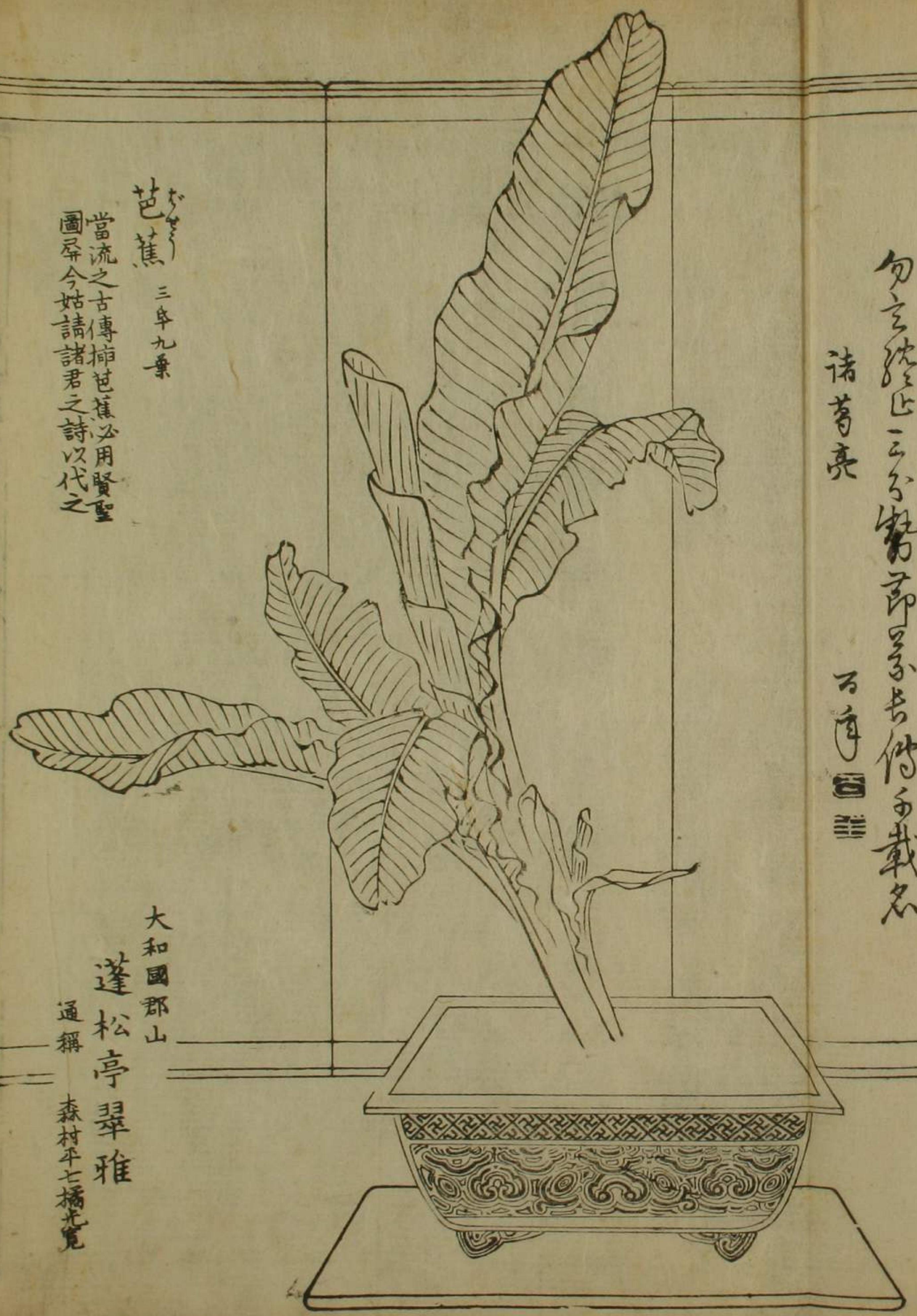
張留侯

神弄 

妙莫奇孫神念
能授孤至錫名
誦勿立然正云
分醫節系書
付手載名

諸葛亮

石印 



芭蕉 三年九葉

當流之古傳
抽芭蕉必用
賢聖圖屏
今姑請諸君
之詩以代之

大和國郡山

蓬松亭翠雅

通稱

森村平七橋光寬

清溪電轉共雲峰
 夢裏猶驚翠
 埽空五嶺莫愁千嶂外
 九華令
 在一壺中
 天波水落層
 見五
 女窗明處
 通念我
 汝池
 太孤
 絕百金歸
 買碧玲瓏

錄東坡之詩

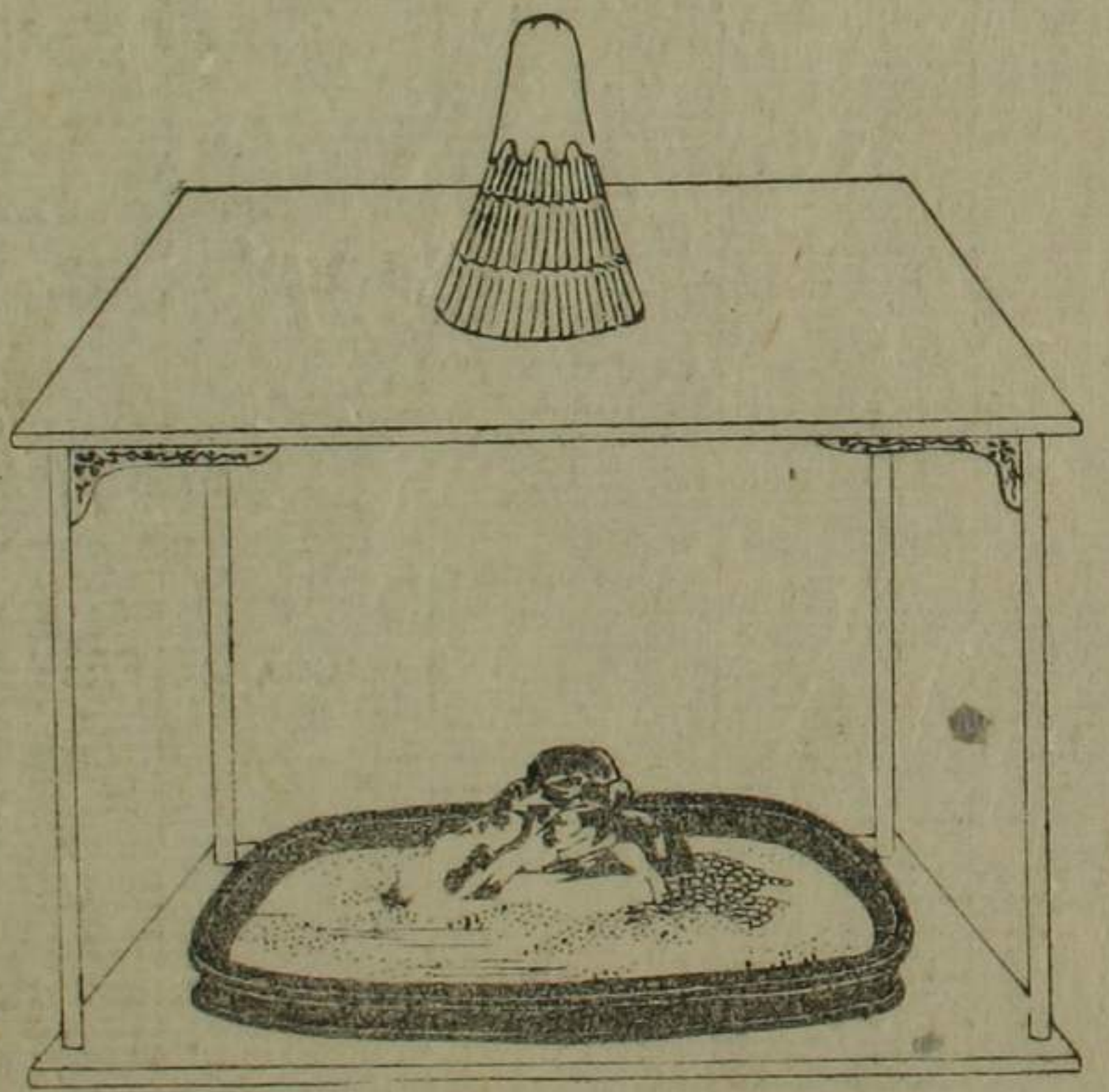
墨隱主人大系記



三石 風早實種御御銘
 三芳野

仙人乃志
 乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志

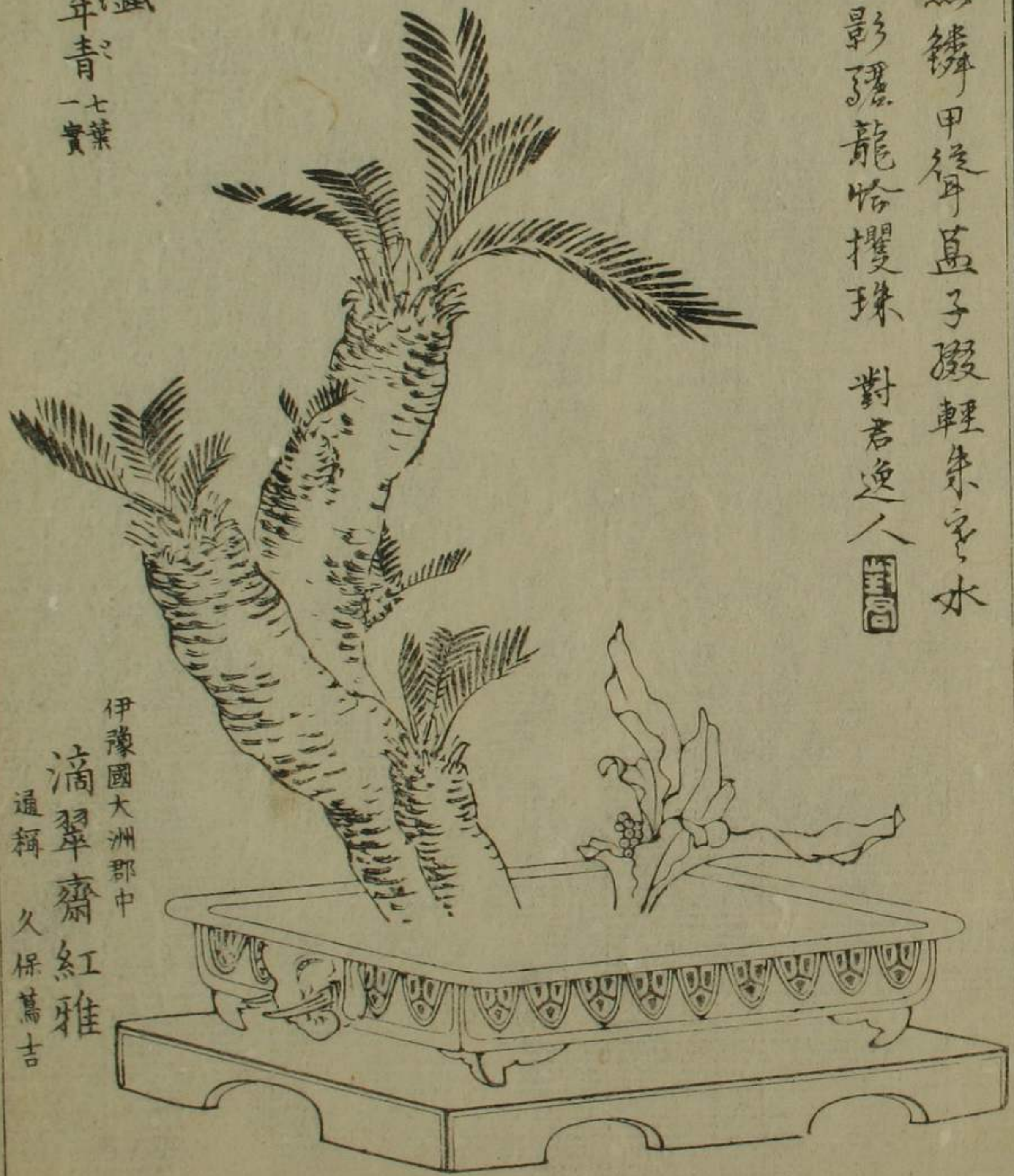
乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志
 乃志乃志



金山 打春景

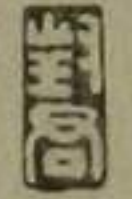
岩室 葦燕石
 通稱 上田勝三郎

蘇鐵
萬年青
一七葉



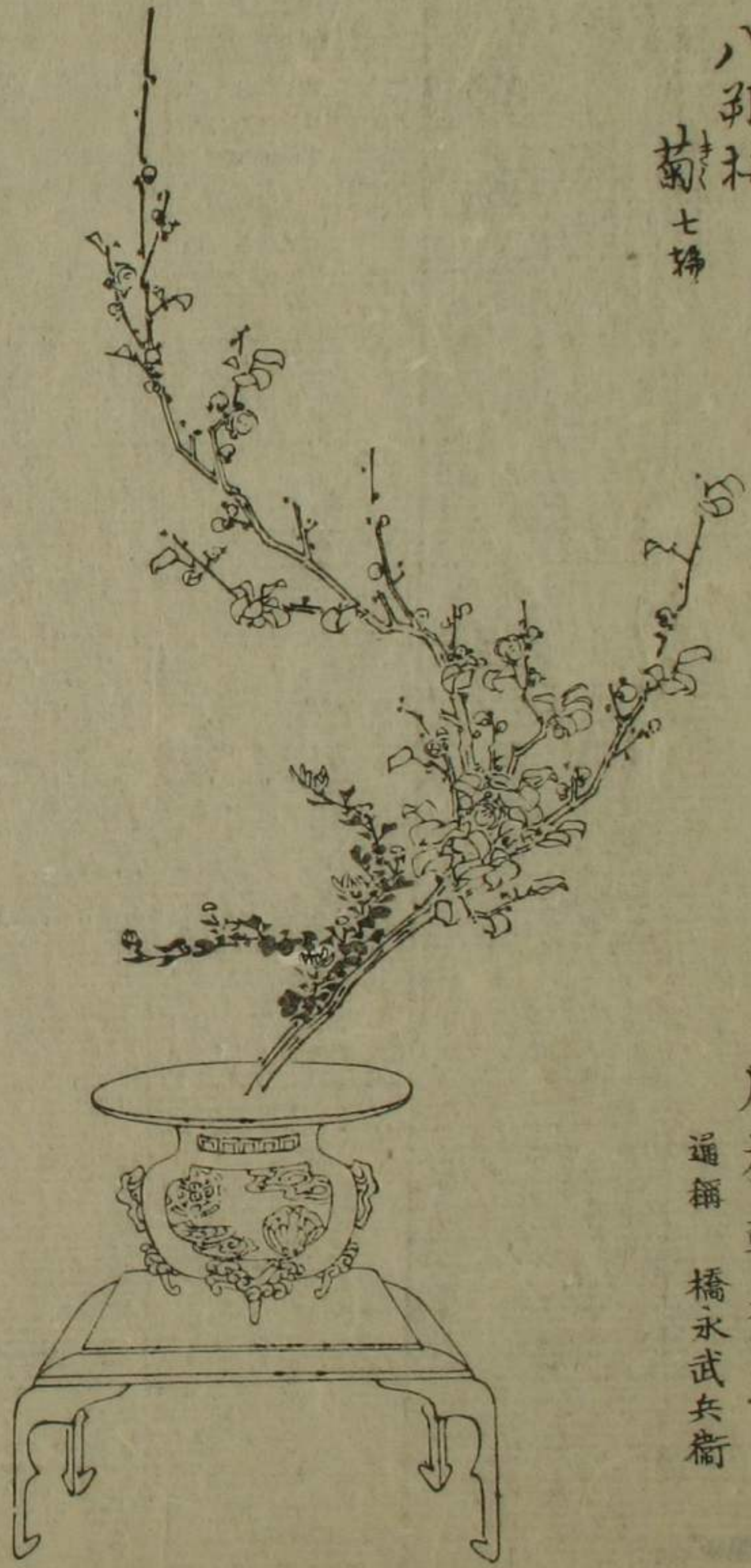
伊豫國大洲郡中
滴翠齋紅雅
通稱 久保篤吉

鐵蕉鱗甲後年葦子殿輕朱室水
倒涵影躍龍恰攫珠 對君逸人



八朔梅
菊七種

荒山田無雙鉢



鳳松軒秀芝
通稱 橋永武兵衛

鶏冠木



平安前御會頭

梅月園王龍

○廿五



東山名士詩園

慕干梅月園翁長歌并短歌

有雅

おれらの梅月の翁まのてなふわいといつれまの花のまは行くを
うめさきもまのいけりくはなれりもくまのさきもくまのさきも
あきらけいなるおれはなにもかたまりなれりあかきあかき
あつきの砂まはさきもまのさきもくまのさきもくまのさきも
さきもまのさきもくまのさきもくまのさきもくまのさきも
まのさきもくまのさきもくまのさきもくまのさきもくまのさきも
あきらけいなるおれはなにもかたまりなれりあかきあかき
あつきの砂まはさきもまのさきもくまのさきもくまのさきも
さきもまのさきもくまのさきもくまのさきもくまのさきも
あきらけいなるおれはなにもかたまりなれりあかきあかき
あつきの砂まはさきもまのさきもくまのさきもくまのさきも
さきもまのさきもくまのさきもくまのさきもくまのさきも

さきもくまのさきもくまのさきもくまのさきもくまのさきも

○活花手引

卷之三

at the end of 1899
the 20th of 1899
the 20th of 1899



茶室
雙樹



小松神遊公 從
 嘉永二年庚戌九月朔日挿於
 洛東祇園廟御幸之間

蒼髯亭 岩田 雙樹



廿二日
 甘六日
 廿七日
 廿八日
 廿九日
 三十日



芳紅裁心成辨，枯生

山步滿丹馨，歲多摩

芳覓各霞凍，高肉瓦

插花經 壬子嘉平月

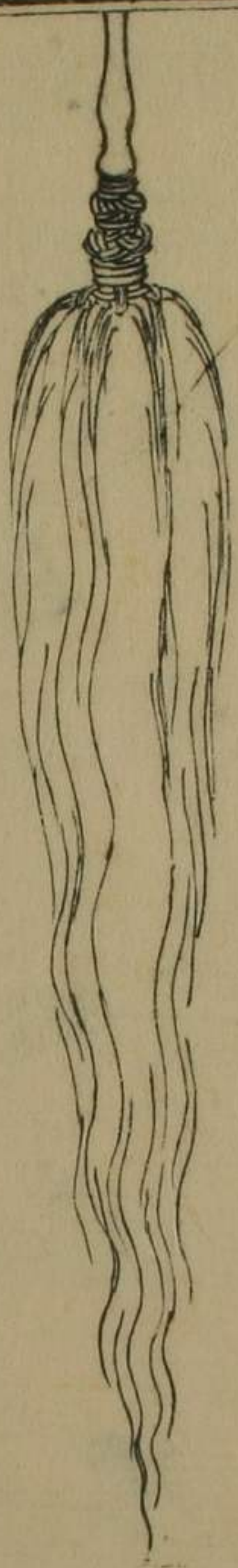
水五主人示，挿花清案詩因題

塞責

百峰



長壽花 さすおせん



Wadani hokuno Emizipolikite sakos
C Hananla kotokajonadit
Koctinazini fetes

gediert
von
Pawenhot

譯文
この外はえりしりきり
さく花のこくかたえり
とちりしりきり
普徽園



旭志齋六雅
通稱 小谷助陸

